

綿の下には紅ばいを著用す、先あしたの御はんを供す、鱒とかいふ御まなを、白き土器に入れて同じ土器おほひて奉る、是をきぬかづきといふ、至極衰微の時節よりはじめて、其嘉例をうしなほかくす、次に御こはく御供す、次に二の御はんを供す、はいせん人、強供御の先中央にある根ぶかを二ばかり、右の手しておしをりて、強供御のうへにおく、亦御前の方にあるこまかなる物を少シとりて、同じく強供御のうへにおく、是も右の手してとる也、次に御箸をとらしめ給て、二の御はんにあるかはらけを左の手にもたしめ給ひて、強供御をすこし御はしにて分て土器に入、亦二の御はんにある菜のあつものく、たちを少うへに置てそと參る、次に平の御はんはんに御盃をすゑて供す、其やう、中央に三どの土器ひとつをすゑて、めぐりに深草土器三ツ宛重て九すう、是きといふ都合廿七がうへにまだの葉をおほふ、はいせんの人左手に平の御はんを持、右の手にてまだの葉をとりのけ、てうし醴酒を入をとりて、御前にさしよす、中央の御さかづきをとりしめ給ひて三獻參る、加へはなし、又まだの葉をおほひて撤す、次に御ゆ御もゆを供す、強供御をとり分られたる土器にうけましく、て參る、いづれも體ばかりなり、次第に御前を撤す、○中二日、○中夕方の御祝きのふにかはらず、くたの御はんは、昨日のを撤して、其所に今日のをとりかへておく也、今日のをばあすとりかへ、三日のをば七日にとりかへ、七日のをば十五日にとりかふる也、十五日のをばやがて其日撤する也、立春のをばやがて當座に撤する也、○中夕方の御祝また同じ、

〔日次紀事正月〕毎日御後調進供御、御後調供御之女子也、御後誤供御者乎、常侍清所、或謂櫃司、又稱中、ナカ言此人常侍中間、節會御神樂等始、及其時、自清所獻御刻限之雜煮、

〔嘉永年中行事〕正月朔日、○中御祝、秉燭の後御祝あり、御引直衣、御單、御張袴をめす、常御殿の東二帖の御座に、吉方に向ひて著しめ給ふ、典侍以下張袴に五つ衣を著す、先あしたの御膳を供す、